

校内研修計画

甲州市立菱山小学校

1 学校課題

本校の児童は、明るく素直な子どもたちで、児童会活動・学校行事などの行事や体験的学習に一生懸命に取り組もうとしている。また、全校児童が37人と小規模であるため、学年を超えた異学年交流活動が盛んで、休み時間には仲良く遊んでいる。学習面では、少人数学級の利点を活かしながら、授業中の全員発言や話し合い活動の充実などの取り組みを通して、自分の考えを発表したり聞き取ったりする力が向上してきている。

しかしその一方で、固定化された人間関係の中ではきちんとした言葉を介さなくても互いがわかり合えてしまう面もある。言葉を介さない結果、うまく自分の思いが相手に伝わらずトラブルを招くこともある。また、固定化された小集団の中で力関係が生まれ、なかなか自分の思いを表現できない児童の姿も見られ、言葉の伝え方で相手を傷つけるような言い方も目立つ。そのため、上手に自分を表現できる力の向上やコミュニケーション能力の育成が課題の一つとなっている。また、与えられた自分の役割は果たそうとする姿は見られるが、役割以外で場面に応じて必要とされることに対して自ら行動に移そうという自主性が乏しいことも課題にあげられる。自分の役割はもちろん、さらには、周りに目を向け、気づき、行動しお互いに支え合う良さを実感させていくことも必要とされる。

そこで、今年度も道徳科に焦点をあて、一人一人が道徳的価値のもと、自ら感じ、考え、他者と対話、協働しながらより良い方向を目指す資質・能力を育てていきたい。

2 研究主題

主 題 「主体的に学習する児童の育成」

副主題 道徳科における対話的な学びをつくる授業の工夫を通して

3 主題設定の理由

新学習指導要領では、「育成すべき資質・能力」として、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力 人間性等」の三つに整理し、その実現のためには、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」が行われることが必要であるとしている。3つの学びは、それぞれが分けられるものではなく、他の2つの学びにもつながっている。

そこで、本校児童の学校課題から、「対話的な学び」に着目し、道徳科の学習過程において「多面的・多角的に考え、議論する」場面を設定し、授業の工夫をしていくことで、主体的に学ぶ児童像を目指していきたい。

道徳科の授業における「対話的学び」とは、児童が、自分で考えたことや感じたことを発表し、自分と異なる考えに接し、自己の考えと他者の考えを比較し、同調・反論すること、そして多面的・多角的に考えて議論する等を通じ、自分自身のものの見方、考え方について気づき、深めたり広げたりすることである。そのためには、教師が児童の考えを揺り動かし、多面的・多角的にとらえ、より考えを深め、自分ごととして考えるような発問・考えに対する問い返しなど授業の工夫を考えていく必要がある。

このような「考え、議論する道徳」の学習活動を通して、児童が多様な感じ方や考えにふれることにより、自身の考えが深まり、判断し、表現する活動が保障され、思考力・判断力・表現力等を育むことになるであろう。

4. 研究の具体的内容と方法

(1) 道徳の授業に関わって

①道徳科の授業実践と授業研究

- ・「対話的な学び」をより深めるため、「考え、議論する道徳」を生かした授業の工夫
- ・子供の変化を見とるための評価の工夫（児童の変容を見とるアンケートの実施）

(2) 甲州市「確かな学力」育成プロジェクトに関わって

①学級・集団づくり，保護者・地域との連携への取組の継続

- ・ Q-U検査とK13法の実施
- ・「家庭教育/子育てQ&A」「家庭学習の手引き」の活用・アウトメディアに関わる取組
- ・自主学習，学習スタンバイへの取組 ・あいさつ，学習規律への取組

(3) 研究方法

- ①「考え、議論する道徳」の授業をつくる学習活動の工夫・道徳の評価についての研修
- ②講師を招聘しての師範授業の参観と理論研究
- ③授業研究会の実施
- ④一人一実践
- ⑤「確かな学力」育成プロジェクトに関わる取組の検討と実践
- ⑥互いに学び合うミニ学習会

5 年間研修計画

研究主任 廣瀬きよ美

研究テーマ	教科領域等	担当者	学年	授業の時期	TC要請
「主体的に学習する児童の育成」 道徳科における対話的な学びをつくる授業の工夫を通して	・校内研の主題・内容・年間計画の決定	研究主任		4月	
	・児童の実態把握(Q-U検査・NRT検査)と実態の分析 ・甲州市「確かな学力」育成Pの取組の提案	研究主任 各担当		5月	
	・ミニ学習会，道徳科の授業づくりの研修会 ・道徳授業の学習会	研究主任		6月	○
	・Q-U検査・NRT検査結果の考査 ・ミニ学習会 ・一人一実践について(授業構想)	研究主任 各担当		7月	
	・教育課程研究(還流) ・甲州市「確かな学力」育成Pの取組	各担当		8月	
	・一人一実践について(授業構想と実践) ・研究授業案検討			9月	
	・一人一実践	研究主任		10月	
	・研究授業 ・授業の検証 ・K13法による児童の実態の分析 ・学習会	授業者 各担任 研究主任		11月	○
	・一人一実践	各担当		12月	
	・研究のまとめについて ・成果と課題について			1月	
	・校内研究全体の成果と課題のまとめ	研究主任		2月	
	・次年度教育課程の編成 ・研究紀要作成	教務主任 研究主任		3月	